

正義の十字の血色の血

井野奈加志

五白山の頂から 青州島まで

敵の中を行き 丘をこえて

朝鮮の自由を 血で守る

お等は恥辱感 朝鮮の皇子

この歌は一九五〇年六月二十五日が始まった朝鮮戦争の最中に歌われた人民ゲリラの歌であるが、物量と近代兵器にたよつてアメリカ侵略軍との手先たちは、ゲリラ戦で多大の死傷兵を出した。

死者はまとめて（もつこに入れ、海水に浸して）日本に送られ、日本で一體ずつ組合せ（手も足も首も頭もバラバラがある）死化粧（死したのが日本の血（死）の商人であった。そこが日本人の血に目をつけた。それに筋力したのが日本の血（死）の商人であった。）と云ふのである。

させたヒト、当時サンタリーバードはやつたカワテルである。

この歌は日本人の血に目をつけた・それに筋力したのが日本の血（死）の商人であった。そこが日本人の血に目をつけた・それに筋力したのが日本の血（死）の商人であった。どちらが目立つようになつた。

当時はまだ戦役間もなくのこと（その日）ぐらしの生活をしている人が多かつた。

職を求めて職安へ行つても職はなく、いくらかでも金をもたねば家へ帰れぬ人は止むなくパン屋に足が向く。食糧難で満足に食べさせてもらひ、少々かい錢ほしさにやつこぐる少年、夫婦で、親子で、兄弟でくる人も多い。

の者り」とたか、小説に出でいた。
負傷者は船と飛行機で日本に送られた。大阪では舊橋の日赤桃山病院、京都東福寺の日赤、大津の日赤などアメリカ軍に捕獲され、アメリカ兵が収容されていた。

戦場の負傷者たるものは、手足がうぎれたり、泥と銃と火傷と手おくれで寝んびが手術を必要とした。手術には大量の輸血が必要であるが、アメリカから送つていては間に合わないし高くつく、それに発表どおりの勝ち戦でないことをアメリカ国民にかくさねばならない。（冬の朝鮮戦線でアメリカ兵は、ウォツカをトマトジュースでわづて飲んだ。フレッド・ディ・マリー（血をじろのマリー）という赤いトマトジュースが脳にこぼれた血を連想

一回の血液がいくらであつたか、わずかなものであつたこと、口、まちがいなし。だから一回血を抜いてまた別の後へ、昨日抜いてまた今日、ヒューリー人たしが多かつた。その結果、血がうすい（のちに青色い血といわれた）ヒューリー人たしが多かつた。そこで、一回血を抜くヒューリーを三つも入れた肉うどんを食べたり、体がだるいのでせんものを使ひながら人が多しので、うどん、せんたし等の屋台店が並ぶようになつた。パン屋のすぐ横が国鉄城東貨物線のかードで、それから西へ京橋の方へ向かうと貨物線の踏切、さらに西へ京阪電車のガードあたりまでいくつかの屋台が出ていた。

いつも疲れた顔をした人たちが、ゆっくりゆっくりとものを食べ、終つてもなかなか立ち去らうとしない姿がよくみられた。
また「カルゲン」という鉄分を含んだ造血剤を呑むと血が濃くなるというので、付近の薬局で買つて呑む人も多くみられた。

造血剤名:カルゲン
英語名:Blood builder

「」のように度度採（壳）血するので、貧血を起こし途中で倒れる人がよくあつたが、救急も警察も知らんふりであつた。

パンクでは、採血した人に「貧血を起こして倒れても、しばらくするヒ回復します」ヒいう意味のことを書いた紙片をもたせ、行倒れ見過ごし証明書としていた。

度度の壳血で血がうすぐなり、体力がなくなつて回復せず、採血を断わられ、つまり出され、ガード下に倒れて寝ている人もたえずみられた。夜になると、そのガードの上をアメリカの戦車や大砲を積んだ無蓋貨車が長々ヒーフブリた。時には戦場から送り返された泥と血にまみれた兵器が画る角もある。（城東貨物線は、吹田から界に至るも）日本陸軍の軍用線であつた。）

西の貨物線も夜になると、むき出しのナバ

ーム爆弾（大量説教兵器）を積んだ貨車が、行倒れた人の横を、人家の裏を、街中を通つて行く。（それは、京都祝^{日付}彈薬庫から片町

京都の七条内浜のドヤに住む佐アヤンは、夫婦で京都七条のパンク通りをして生活していったが、需要と供給の關係で、京都のパンクで断わられることはしばおきるようになつた。

京都で断わられると、なるべく入湯券か只乗りで、大阪の京橋のパンクへやつてくる。力ガルテンを呑んだり、当時はホルモンが安くつたので内浜で生肝を呑み込んだり、塩を吞んだり、大阪かけもろをやつたので、ついに佐アヤンは性不能になつてしまつた。

「女は月に一回余つた血を出すぐらいやからこたえんけど、男はあきまへんわ。」力アはゼニもつくる奴に貸しましてん」

内浜のドヤに泊まる金（一日五〇円）もなべり、京都駅の待合室で鉄道公安官に迫り出されこは、またスキをみこもどりして、時やつて来る摄影所の「其多大勢」の手配師の弁当付六十円にありつこうとするのであ

繰放出をだこ、松吉から京東線＝今の大井線を経て大阪へ、運ばれるのだ。）

運ばれた兵器は、死傷者になつてかえつて黄色い血がふれこりつた。

↑京都→大阪 かけもぢで採血

朝鮮戦争の特需景気で一部の戦争成金が配えたり、神武景氣だ消費は美徳だと云われたが、戦争用の採血はなくなり、血を抜くだけが、抜かれ体力をなくした人々は、必ずこじもまざならず、パンクは採血者カードで制限をはじめた。

常時血を抜いていると

「体がだるくなり、目がかすみ、動けんようになりまんねン。それに血イ抜くと麻薬うつたときみたいに、ほうつとして中毒症状になりまんのや。ついで、あかんあかん思ひまちあまたパンクへ行つこしまりますんや」

撮影所の手配師ヒ駆員や公安とのトラブルがあるヒ、仲に立つて難をきかせてカタをつけ、「行倒れの死んだモンにも使えんワイ」と断わられるようになつた。

撮影所の手配師ヒ駆員や公安とのトラブルがあるヒ、仲に立つて難をきかせてカタをつける連ぬ、夜の京都駅長、秋やんというのが、やんに立つてもゼニにならんので、手配師や^①京都駅待合室には何十人かの人があり、（人買ひを行つこいた）にニラミ引きかすため、血を抜くだけ抜かれて、パンクをしめだされ、死人の役も出けんと云われても佐アヤンは生きている。

生きている限りハラはへる。金の事なんか忘れてメシを食ひ、匂回かつまみ出されたあげくに無錢飲食をつま出され、其事のことをラジオと警察とはどう（因：ラジオ四番）

このビをおぼえて積放され、パンクへ行つたりラジオをやつてパワられたりしてゐるうちにヨシラジオでも酒を呑むと罪が重いが、食うだけなら脂飯みたいなものん食わんヒウマイもん食えといふ、その道の先輩の知恵もさすがられ、ゼニを出しこは一生見込のなさそうなものんも食べてこみた。

「これは甲斐庄のこな」と佐アヤん曰云う
血イ毒つて我が身を食うて死人の役もでけん
ように弱つこいた体だ、スタ和や未決の妻メ
シと出でてきたヒキのラシオのおかげで、だん
だん体が回復しこきた。

数年後、京都駅近くで出来たに佐アヤんは
見ちがえる程男らしくなつこいた。木津川の
砂利ヒリヒリで働いていふといふ。
「あの時のおれのつもりだす、一パイ呑ん

じくなはれ」と、あの時、駅で夜の駅員にどつかれたあヒビ、あとんを食べさせたことを覚えていし、あの時の店、駅前橋丁のホルモ

いにアイコヤ・ああそれにあの夜の駅長、あ
のガキこのへんの店にシキミで力ザツタル云
うて恐カツしよつて、山科（刑務所）へ行つ
てまつさ。人に死人もでけん云いくてつて、

駆も外間もねへ書こりませひ。ひみつも外間もねへ書こりませひ。
「ほんと、おまえの心地いいんだな。」
「ほんと、おまえの心地いいんだな。」

「おまかせ都のシナモン」の話

であつた。あの頃、夏にはケモロウ青カンの連中が沢山いた。近所に「東寺」というデカイ寺院があり、そこで蚊にされながら青カンをかき、パンクまで五分程、パンクの前には当時キャベツ畑があつた。畠が立ったからなりに、キャベツを食べる比重（血液の）が高くなると云つて、道路際のキャベツは、蝶々の幼虫、青虫の上前来ハネこすつかりなくなつていて、

おのれがシキミで入ってたらエエわ」
佐アヤンの腰は誰もうらんでりない。きつ
と黄色い血が赤くなつたせりだろう。

「ノルの血、抜きやすかってあれ、口紅の房
料や、美魔用パツクに使うんやうでんな。
ネエちゃん赤いのんぬりやがつて、わいの血
イでつくったんかも知れんでは、まあそんな
安もんのフレヨンみたいなもんヒヂラうじも
つと高いやフやろけどなア」
酒がまわつて佐アヤんの話はつづく。
「死んだモンの役もでけん云われたワイが
我が身を食うタコみたいなことはあかん、ま
あこれまでに他人のものは大分食うにつだけ
ビ、ワイも食われるだけ食われてたんやさか

ンおどる西ビシツボの木込みヒー翁知ら未くな
りながら、パンク通じたしにしたがてのヒビ
やう、畠わす語じに咲く花をせしくれた。た
ゞ誰かにきじほんのだろう。かーのあ
る奴に賣したカカアのヒビをもとと、「ヒエ
のんじけめしん」へ販いねがひ、「四コだ
けぬじり」もなりねへんわ」と賣自ヒ田庄が
立派つた(?)これがほほの西ビシツボのヒキ
つた。

に固定まで読んでいる。その数五百人余りか。少くもメスで耳の下を切り、せつからかラスのストローのようなもので血を採り、青い液の入ったビンに落とす。次のは合格、落いたらパー。すなわち不合格である。

青カン、ノーチャスの我々はこれこそ必死である。一時に首をエム輪でしばり、ウツ血させて検直を受けるのである。幸にして允めば腕に合格の大さな印を押されて、ラ度は体重検直。四五kg以下は採血しないので、当

時の鬼はフライ級で四五kgはなかつた、ぶけトに石コロを入れ、やつと四五kg、これで休血である。

二階に上がるビ砂糖水のタンクがあり、これを飲んで順番を待つ。俺の番号が来ると、ベッドに上がり腕を出す。これからが本当の売血である。太い針を差し込まれ、エアーで抜いているのか血管と針の間がピリピリする。この時こそ、肉瘤の腫が多少く血の氣持である。

（10）
走るビ、赤いフワロに入つた薬剤一個と四五〇円をくれる。朝の五時から並んで、手にしたのは三時過ぎ。この金で押り直にあら九条署前のホルモンうどんの旨いこと。この店は今はどうなつてゐるかわからんが、売血者で大きくなつたようなものだ。

京都には、当時、第二日正ヒ高野血液研究所ヒ三カ所あつた。栗原寺にあつた第二日正は二〇〇ビで五〇〇円、高野の方は四〇〇円であつた。

体重のある人連は、よく、かけもうさまわフていたようと思う。

（11）
釜に仕事のない現況、京橋のパンクも多いとかと聞いた。でもネ、できることなら売血はよした方がいいよ。一四〇〇円ヒ馬鹿げた。単価カ、腹が立つよね。

第三回 血で命つゝ食われるもの ——ビルクはじまりの日—— 駒金哉

前略

『渡世』七月号掲手せり。ありがヒ

（12）
液パンクについて聞かれた件をたいした参考にはならんが、まことにまでの能書が少し足さないと思い出せないが……

（13）
『ソレはなんと當時の
方が高く売れてた

さて、安い血を売つてゐるのと同じとあされたのだが、ホントらしいので、旧い話であるが、我が「赤い血、白い血、吸血鬼」時代をうりとまことに——ヒ云つても、専い血を売らなければそれはデ力に付けられる、とかくこの世は住みにくいか生きねばならん！ だが粗末な呑きした奴に真の悪人はいなし。眞の悪人は、どうの、ニコニコと愛想の良い吸血鬼ではないか。様々な形で殺されるが、今日は血

（14）
（15）
（16）
（17）
（18）
（19）
（20）
（21）
（22）
（23）
（24）
（25）
（26）
（27）
（28）
（29）
（30）
（31）
（32）
（33）
（34）
（35）
（36）
（37）
（38）
（39）
（40）
（41）
（42）
（43）
（44）
（45）
（46）
（47）
（48）
（49）
（50）
（51）
（52）
（53）
（54）
（55）
（56）
（57）
（58）
（59）
（60）
（61）
（62）
（63）
（64）
（65）
（66）
（67）
（68）
（69）
（70）
（71）
（72）
（73）
（74）
（75）
（76）
（77）
（78）
（79）
（80）
（81）
（82）
（83）
（84）
（85）
（86）
（87）
（88）
（89）
（90）
（91）
（92）
（93）
（94）
（95）
（96）
（97）
（98）
（99）
（100）
（101）
（102）
（103）
（104）
（105）
（106）
（107）
（108）
（109）
（110）
（111）
（112）
（113）
（114）
（115）
（116）
（117）
（118）
（119）
（120）
（121）
（122）
（123）
（124）
（125）
（126）
（127）
（128）
（129）
（130）
（131）
（132）
（133）
（134）
（135）
（136）
（137）
（138）
（139）
（140）
（141）
（142）
（143）
（144）
（145）
（146）
（147）
（148）
（149）
（150）
（151）
（152）
（153）
（154）
（155）
（156）
（157）
（158）
（159）
（160）
（161）
（162）
（163）
（164）
（165）
（166）
（167）
（168）
（169）
（170）
（171）
（172）
（173）
（174）
（175）
（176）
（177）
（178）
（179）
（180）
（181）
（182）
（183）
（184）
（185）
（186）
（187）
（188）
（189）
（190）
（191）
（192）
（193）
（194）
（195）
（196）
（197）
（198）
（199）
（200）
（201）
（202）
（203）
（204）
（205）
（206）
（207）
（208）
（209）
（210）
（211）
（212）
（213）
（214）
（215）
（216）
（217）
（218）
（219）
（220）
（221）
（222）
（223）
（224）
（225）
（226）
（227）
（228）
（229）
（230）
（231）
（232）
（233）
（234）
（235）
（236）
（237）
（238）
（239）
（240）
（241）
（242）
（243）
（244）
（245）
（246）
（247）
（248）
（249）
（250）
（251）
（252）
（253）
（254）
（255）
（256）
（257）
（258）
（259）
（260）
（261）
（262）
（263）
（264）
（265）
（266）
（267）
（268）
（269）
（270）
（271）
（272）
（273）
（274）
（275）
（276）
（277）
（278）
（279）
（280）
（281）
（282）
（283）
（284）
（285）
（286）
（287）
（288）
（289）
（290）
（291）
（292）
（293）
（294）
（295）
（296）
（297）
（298）
（299）
（300）
（301）
（302）
（303）
（304）
（305）
（306）
（307）
（308）
（309）
（310）
（311）
（312）
（313）
（314）
（315）
（316）
（317）
（318）
（319）
（320）
（321）
（322）
（323）
（324）
（325）
（326）
（327）
（328）
（329）
（330）
（331）
（332）
（333）
（334）
（335）
（336）
（337）
（338）
（339）
（340）
（341）
（342）
（343）
（344）
（345）
（346）
（347）
（348）
（349）
（350）
（351）
（352）
（353）
（354）
（355）
（356）
（357）
（358）
（359）
（360）
（361）
（362）
（363）
（364）
（365）
（366）
（367）
（368）
（369）
（370）
（371）
（372）
（373）
（374）
（375）
（376）
（377）
（378）
（379）
（380）
（381）
（382）
（383）
（384）
（385）
（386）
（387）
（388）
（389）
（390）
（391）
（392）
（393）
（394）
（395）
（396）
（397）
（398）
（399）
（400）
（401）
（402）
（403）
（404）
（405）
（406）
（407）
（408）
（409）
（410）
（411）
（412）
（413）
（414）
（415）
（416）
（417）
（418）
（419）
（420）
（421）
（422）
（423）
（424）
（425）
（426）
（427）
（428）
（429）
（430）
（431）
（432）
（433）
（434）
（435）
（436）
（437）
（438）
（439）
（440）
（441）
（442）
（443）
（444）
（445）
（446）
（447）
（448）
（449）
（450）
（451）
（452）
（453）
（454）
（455）
（456）
（457）
（458）
（459）
（460）
（461）
（462）
（463）
（464）
（465）
（466）
（467）
（468）
（469）
（470）
（471）
（472）
（473）
（474）
（475）
（476）
（477）
（478）
（479）
（480）
（481）
（482）
（483）
（484）
（485）
（486）
（487）
（488）
（489）
（490）
（491）
（492）
（493）
（494）
（495）
（496）
（497）
（498）
（499）
（500）
（501）
（502）
（503）
（504）
（505）
（506）
（507）
（508）
（509）
（510）
（511）
（512）
（513）
（514）
（515）
（516）
（517）
（518）
（519）
（520）
（521）
（522）
（523）
（524）
（525）
（526）
（527）
（528）
（529）
（530）
（531）
（532）
（533）
（534）
（535）
（536）
（537）
（538）
（539）
（540）
（541）
（542）
（543）
（544）
（545）
（546）
（547）
（548）
（549）
（550）
（551）
（552）
（553）
（554）
（555）
（556）
（557）
（558）
（559）
（560）
（561）
（562）
（563）
（564）
（565）
（566）
（567）
（568）
（569）
（570）
（571）
（572）
（573）
（574）
（575）
（576）
（577）
（578）
（579）
（580）
（581）
（582）
（583）
（584）
（585）
（586）
（587）
（588）
（589）
（590）
（591）
（592）
（593）
（594）
（595）
（596）
（597）
（598）
（599）
（600）
（601）
（602）
（603）
（604）
（605）
（606）
（607）
（608）
（609）
（610）
（611）
（612）
（613）
（614）
（615）
（616）
（617）
（618）
（619）
（620）
（621）
（622）
（623）
（624）
（625）
（626）
（627）
（628）
（629）
（630）
（631）
（632）
（633）
（634）
（635）
（636）
（637）
（638）
（639）
（640）
（641）
（642）
（643）
（644）
（645）
（646）
（647）
（648）
（649）
（650）
（651）
（652）
（653）
（654）
（655）
（656）
（657）
（658）
（659）
（660）
（661）
（662）
（663）
（664）
（665）
（666）
（667）
（668）
（669）
（670）
（671）
（672）
（673）
（674）
（675）
（676）
（677）
（678）
（679）
（680）
（681）
（682）
（683）
（684）
（685）
（686）
（687）
（688）
（689）
（690）
（691）
（692）
（693）
（694）
（695）
（696）
（697）
（698）
（699）
（700）
（701）
（702）
（703）
（704）
（705）
（706）
（707）
（708）
（709）
（710）
（711）
（712）
（713）
（714）
（715）
（716）
（717）
（718）
（719）
（720）
（721）
（722）
（723）
（724）
（725）
（726）
（727）
（728）
（729）
（730）
（731）
（732）
（733）
（734）
（735）
（736）
（737）
（738）
（739）
（740）
（741）
（742）
（743）
（744）
（745）
（746）
（747）
（748）
（749）
（750）
（751）
（752）
（753）
（754）
（755）
（756）
（757）
（758）
（759）
（760）
（761）
（762）
（763）
（764）
（765）
（766）
（767）
（768）
（769）
（770）
（771）
（772）
（773）
（774）
（775）
（776）
（777）
（778）
（779）
（770）
（771）
（772）
（773）
（774）
（775）
（776）
（777）
（778）
（779）
（780）
（781）
（782）
（783）
（784）
（785）
（786）
（787）
（788）
（789）
（790）
（791）
（792）
（793）
（794）
（795）
（796）
（797）
（798）
（799）
（800）
（801）
（802）
（803）
（804）
（805）
（806）
（807）
（808）
（809）
（8010）
（8011）
（8012）
（8013）
（8014）
（8015）
（8016）
（8017）
（8018）
（8019）
（8020）
（8021）
（8022）
（8023）
（8024）
（8025）
（8026）
（8027）
（8028）
（8029）
（8030）
（8031）
（8032）
（8033）
（